

ルワンダ留学修学レポート

東京外国語大学国際社会学部 3年 加藤歩美

渡航国名：ルワンダ

<留学先での学び>

この度は、埼玉親善大使に委任いただき、誠にありがとうございました。アフリカ・ルワンダでの1年間の留学では、30年前に起きた大量虐殺後の平和構築の取り組みを実際に見ること、ルワンダ近隣諸国における紛争を中心に、ミクロな視点から平和・紛争について現地学生と一緒に学び、考えること、そして子どもへの人道支援のビジネス化の可能性を探ること、この三つをメインに据えながら、座学と実践活動を同時並行で行いました。大学での授業や課外活動のほか、Good Neighbors という団体でのインターンシップや小学校訪問、平和構築に関するボランティア活動などを行いました。



↑ともに学び、暮らした友人たち

<埼玉のPR状況>

日本から遥か離れたルワンダとはいえ、毎年日本人留学生を受け入れている大学であったため、日本に関する知識がある学生が多かったです。しかし埼玉を知っている人はいなかったため、埼玉のPRをすべく、主に二つのことに取り組みました。一つ目は、[埼玉のPR動画](#)を作り、ルワンダ人学生と留学生（コンゴ、南スーダン、ブルンジ、カメルーンなど近隣諸国から来ている学生）に観てもらったことです。二つ目は、留学生が集ったピクニックで、川越産の芋けんぴを配ったことです。ルワンダでもさつまいもがよく食べられるため、みんな馴染みがあったのか、美味しそうに食べてくれました。また、帰国する頃には、多くの友人が「日本に行ったら歩美の故郷である埼玉に行きたい」と言ってくれました。



→川越の芋けんぴをもらって喜ぶ友人たち

<ルワンダについて>

東アフリカに位置する小さな内陸国・ルワンダは、首都（キガリ）は発展を感じさせるものの、私の滞在していた場所を含め、それ以外の場所はのどかな町・農村が多いです。「千の丘の国」と言われ、美しい自然が広がる美しい国です。

寮（月わずか 1,600 円）での生活は、バケツ一杯の冷水でお風呂を済ませ、電化製品もほぼ使わず、狭い 4 人部屋で暮らしていたため、不便なことがたくさんありました。

↑どこであれ自分が丘の中にいます。

しかしそれ以上に、アフリカ出身の学生たちと一緒に暮らし、食事を共にし、遊んだり話したりすることを通して、なんでも話せるかけがえのない親友たちを作ることができました。

ルワンダの魅力を二つ挙げると、一つはアフリカ料理です。代表的なものはウガリ（キャッサバの粉から作られた主食）で、肉や魚のソースと一緒に食べます。二つ目はキテンゲと呼ばれるアフリカ布です。また、物価の安さもありがたかったです。



↑キテンゲで作ったドレス



↑ウガリと牛肉ソース

最後までご覧いただき、ありがとうございました。